

新たな障害者雇用モデルの実証実験 報告書



本報告書は、令和6年度に実施した、豊島区における新たな障害者雇用モデルの実証実験について、実証結果を豊島区障害者就労支援センターの視点でまとめたものです。本報告書内で紹介する雇用モデルの効果が、他自治体、障害者就労支援機関等で同様に有用性を発揮するものを保証するものではありません。

令和7年1月22日

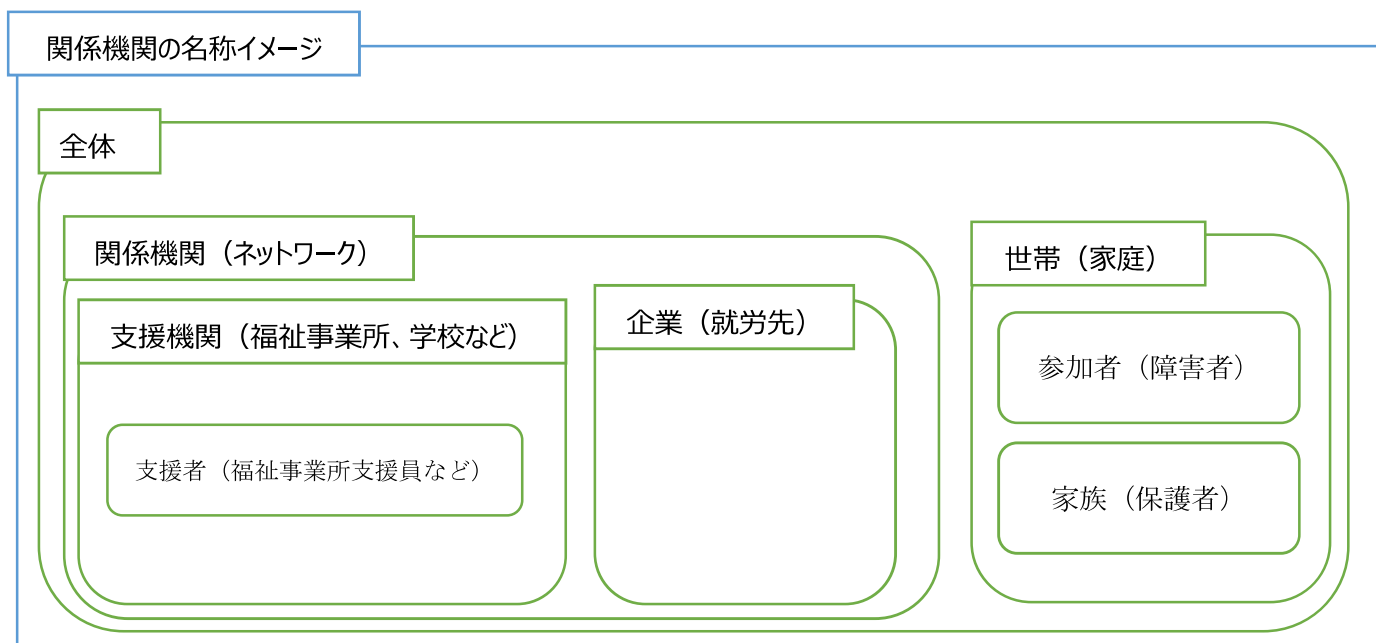
豊島区

(豊島区障害者就労支援センター)



— 目 次 —

1. 実証実験の目的	- 2 -
2. 実証実験の内容	- 4 -
3. 課題とその対策の検討	- 6 -
4. 有用性の検証	- 10 -
5. 今後の方向性	- 25 -
6. 資料	- 巻末 -



1. 実証実験の目的

豊島区では、区障害者就労支援センターを直営で運営しており、地域の障害者就労支援機関として障害者の相談に乗るだけではなく、障害者の就労における地域の課題解決を求められている。

今回の実証実験では、障害者の就労における地域課題を、障害の程度や特性、重度化などによって「働きたくても働けない」というように、就労の機会に恵まれないことで社会参加できず、社会的孤立につながってしまうことと捉え、「働きたくても働けない」障害のある方も、今までと異なる新たな雇用モデルを活用することにより、「この働き方なら働ける」といえる機会の創出を目的に取り組みを開始した。

今回、その「新たな障害者雇用モデル」として、豊島区内における有効性を検証するために今年度実証実験を行ったのが、「遠隔操作型分身ロボット雇用モデル」と「超短時間雇用モデル（豊島区版）」である。

【実証実験の概要（モデル1）】

検証対象	遠隔操作型分身ロボット雇用モデル	
検証期間	令和6年11月1日～11月30日	
体制	全体管理	豊島区（豊島区障害者就労支援センター）
	フィールド提供	サンシャインシティ （株式会社 サンシャインシティ） （株式会社 サンシャインエンタプライズ）
	就労サポート	東京都立北特別支援学校
	助言・分析支援	立教大学 コミュニティ福祉学部（鈴木助教）
	機材提供	株式会社オリィ研究所
	通信環境提供	東日本電信電話株式会社 東京北支店
参加者	東京都立北特別支援学校 生徒1名（女性・身体障害）	
内容	対象者が、自宅等の遠隔地から分身ロボット「OriHime」を介して、サンシャインシティ内で接客対応を行う	
参考	https://orihime.orylab.com/	



実験の様子

〔実証実験の概要（モデル2）〕

検証対象	超短時間雇用モデル（豊島区版）	
検証期間	令和 6 年 11 月 1 日～11 月 30 日	
体制	全体管理	豊島区（豊島区障害者就労支援センター）
	フィールド提供	サンシャインシティ （株式会社 サンシャインシティ） （株式会社 サンシャインエンタプライズ）
	就労サポート	豊島区地域支援協議会就労支援部会
	助言	東京大学 先端科学技術研究センター（近藤教授）
	分析支援	立教大学 コミュニティ福祉学部（鈴木助教）
参加者	豊島区立駒込福祉作業所 利用者（女性・知的障害） 豊島区障害者就労支援センター 利用者（女性・精神障害） 豊島区障害者就労支援センター 利用者（男性・知的障害） 豊島区障害者就労支援センター 利用者（男性・精神障害） 特定非営利活動法人このは 利用者（男性・精神障害） 特定非営利活動法人 NPO あおぞら （男性・精神障害） ウェルビー株式会社 （女性・精神障害）	
内容	対象者が、サンシャインシティ内で短時間就労を行う	
参考	https://ideap.org/project/job/ https://ideap.org/assets/img/project/job/overview/overview.pdf	



実験の様子

[illegible]

オリジナルマニュアル

2. 実証実験の内容

■各モデル共通事項

- ・実証実験を推進するにあたり、参加した障害者が不利益を被らないことを第一として、関係者は最大限の配慮を行うことを共通認識とした。
- ・実証実験の期間は令和6年11月中の1か月間とした。
- ・実証実験のフィールドはサンシャインシティ内とし、区と協定を結んだ。
- ・実験参加者などにアンケートを実施することで効果検証を行うこととした。

協定名

豊島区と株式会社サンシャインシティとの障害者就労支援事業の実証実験に関する協定書（令和6年9月6日 協定締結）



～企業内をフィールドとした実証実験は23区初～
「新たな障害者雇用モデルの実証実験に関する協定」を
株式会社サンシャインシティと締結しました！

協定締結式の様子

■新たな障害者雇用モデルの実証実験 概要

- ・期間： 令和6年11月5日（火）～29日（金）の平日（業務により異なる）
- ・会場： サンシャインシティ事業所内（実験により場所は異なる）

■各メディアに対するプレスリリース

取り組みを効果的に発信するため、実証実験について株式会社サンシャインシティ及び豊島区の広報部門と連携し、プレスリリースを行った。取材案内用に6回分の枠を用意した。

新たな障害者雇用モデルの実証実験取材案内日時

① 11月15日（金） 9：00～12：00

② 11月15日（金） 13：00～16：00

③ 11月22日（金） 9：00～12：00

④ 11月22日（金） 13：00～16：00

⑤ 11月28日（木） 9：00～12：00

⑥ 11月28日（木） 13：00～16：00

■各モデルのシフト

(1) 遠隔操作型分身ロボット雇用モデル

新たな雇用モデル実証実験(遠隔操作型分身ロボット雇用)シフト表

令和6年11月1日時点

		令和6年11月																													
		第1週				第2週				第3週				第4週				第5週													
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
時間	分	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
10:00～	60						準備		準備			準備				準備			準備		準備		準備			準備		準備	準備		
11:00～	60						A		A			A				A			A		A		B			B		B	C		
12:00～	休憩																														
13:00～	60								A			A				A				A		A		B			B		B	C	
14:00～	60							振返り				A				振返り				A		A		振返り			B		振返り	振返り	

就労時間数	
A(レベル1)	600分
B(レベル2)	720分
C(レベル3)	180分

実証実験内容:参加者が分身ロボットOrihimeでレベルごとの接客対応を行う						
A(レベル1)			B(レベル2)		C(レベル3)	
場所	サンシャイン60展望台		場所	サンシャイン60展望台		
名称	てんぼうパーク		名称	てんぼうパーク		
業務	エレベーター整列案内		業務	ハイハイスペース見守り		
概要	入口での挨拶や会話をしながら列整理の案内を依頼 ⇒AIではないため並んでいる間の会話を楽しむことができたり、お子様の興味を引き付ける		概要	お子さんが多い場所の見守りを依頼 ⇒追加でスタッフの人手を割く必要がなく、安心安全に遊んでもらうことができる		
イメージ			イメージ			

(2) 超短時間雇用モデル (豊島区版)

新たな雇用モデル実証実験(超短時間雇用)シフト表

令和6年11月1日時点

				11月																													
				第1週					第2週					第3週					第4週					第5週									
時間	分	業務名	従事場所	1 金	2 土	3 日	4 月	5 火	6 水	7 木	8 金	9 土	10 日	11 月	12 火	13 水	14 木	15 金	16 土	17 日	18 月	19 火	20 水	21 木	22 金	23 土	24 日	25 月	26 火	27 水	28 木	29 金	30 土
9:30~	30	open準備	水族館					A	A		A			A	A	A	A				B	B	B	B			B	B	B	B			
10:00~	30	エサ詰め	水族館					A	A		A			A	A	A	A*				B	B	B	B			B	B	B	B			B*
12:00~	30	清掃(ほこりと)	事務所						E							E							E							E			
12:30~	30	清掃(ほこりと)	事務所						E							E							E							E			
13:00~	30	ベビーカー消毒	商業施設内					C	C		C			C	C	C	C				D	D	D	D			D	D	D	D			D
		子ども服仕分け	事務所							F						F							F								F		
13:30~	30	ベビーカー消毒	商業施設内					C	C		C			C	C	C	C*				D	D	D	D			D	D	D	D			D*
		子ども服仕分け	事務所							F						F							F								F*		

「※」シフト表の最終出勤日は、最後10分間で報告書を作成

■実習奨励金

超短時間雇用モデルの参加者には、豊島区障害者就労支援事業実施要綱に基づき、実習奨励金を支給した。

支給額	700 円 (日額)
-----	------------

遠隔操作型分身ロボット雇用モデルは、特別支援学校の実習として取り組んだため、実習奨励金の支給は行わないこととした。

3. 課題とその対策

今回の実証実験に関して、各モデルを展開した際、課題となった事項とその対策を列挙する。

(1) 遠隔操作型分身ロボット雇用モデル

○通信環境

課題	対策（検討含む）
・ロボットや操作パイロットの設置環境によって、通信環境が悪くなる。特に、高層ビルの内部等は Wi-Fi の接続が不安定となる時があった。 ・1日に複数回パイロットとの接続不良が発生した。 ・環境調整に想定以上に時間がかかった。	・Wi-Fi を壁から少し離すなど、通信しやすい位置に設置。細かな移動がなく、設備的に可能であるならば有線接続も有効と推測される。 ・接続不良はロボット本体の再起動を行うと解消した。 ・準備段階から関係機関の綿密な連携を要する。 ・設置後の流れを事前に整理しておく、電波環境確認をスムーズに実施できる。

参考：今回の実証実験データ使用量【10.2GB／7.0GB】（docomoWi-Fi 5G）

○設置環境

課題	対策（検討含む）
・ロボット単体では、見守り位置や利用者に対する適切な距離が保てない。 ・設置場所を工夫しないと、話しかけてもお客様（利用者）が素通りしてしまう。 ・AIロボットではなく、人が操作していることが伝わりにくい。 ・音声聞き取りにくい。	・お客様（利用者）に気づいてもらえるよう、専用の台を用意した。 ・お客様（利用者）の動線を意識した位置にロボットを設置した。 ・ロボットに注目してもらえるようポップを工夫するなど目立つようにした。 ・外付けのスピーカーマイクを用意することで音声の感度をあげた。

○操作・接客

課題	対策（検討含む）
・タブレットを使った操作で、ボタンの切替など、隻腕ではスムーズに操作しにくいことがあった。 ・実験者からは対話しながら操作することが初めは難しかったという声があった。 ・お客様との対話が1ラリーで終わってしまうなど、コミュニケーション上の課題があった。	・組み込まれたボタンを操作することで、急な対応でも無反応にならないようにプログラムした。 ・ロボット操作のレクチャーを受ける時間を設けた。 ・マニュアルを作成し、会話のヒントになるようなフレーズを用意したり、関係者（サンシャイン担当者、特別支援学校教員など）とミーティングを行い、次なる目標を明らかにしたりした。

(2) 超短時間雇用モデル（豊島区版）

○事前準備

課題	対策（検討含む）
・支援機関と連携して、業務内容について本人への説明が不足していた。 ・支援機関の見立てと、本人のニーズについて十分なアセスメントを実施したが、十分ではなかった。 ・実証実験開始前に不安になって辞退をする参加者が発生した。 ・業務の切り出し方等について、超短時間雇用に対する認識のズレ（切り出し業務内容、福祉的就労との違い、等）が関係機関内で生じた。 ・障害特性等で配慮すべき点が異なるため、個別マニュアル（業務内容・道順）を作成する必要性が生じた。 ・マニュアル作成に想像以上に時間を要した。 ・マニュアル作成の際は、支援者との情報共有や事前確認を行ったが、障害特性により、配慮すべき事項に個別性が求められた。 ・認識のズレを最小にするよう、準備時間を十分に確保する必要がある。	・関係機関を集め、超短時間雇用の理念共有を行う場を設けた。 ・勤務者本人の認識とマッチングを担う支援者、コーディネート機能を担う機関が十分にすりあわせる場（理念共有）を用意した。 ・勤務者、企業、支援者、超短時間雇用センター機能を担う機関の役割を明確化したマニュアル作成した。 ・準備時間を確保できない分、メールや電話でその都度確認をするようにした。

○実験中

課題	対策（検討含む）
・実証実験の職場まで道順が分からず到達できない参加者が発生した。 ・職場に到着後、入室方法が分からず入室できない参加者が発生した。 ・支援者から実証実験について、振り返りを実施してほしいという要望があった。 ・企業の担当が勤務者に対する助言等を誰に伝えるべきか迷うことがあった。	・職場までの道順写真を入れたマニュアルを作成した。 ・入室方法について、写真を入れた分かりやすいマニュアルを作成した。 ・初回は支援者同行を原則とし、就労支援センター職員も同席した。 ・従事の最終日に、豊島区障害者就労支援センターが作成した業務報告書を用い、振り返りを実施した。 ・企業と超短時間雇用センター機能を担う機関が連携し、相談の流れを確立することが必要。

○超短時間雇用中核機関（コーディネート）機能

課題	対策（検討含む）
・簡易的な実証実験のため、業務と勤務者のマッチング等、超短時間雇用中核機能（コーディネート機能）を行う機関を支援者と想定していたが、負担が大きく担いきれなかった。	・豊島区障害者就労支援センターを超短時間雇用中核機能（コーディネート機能）と見立て、簡易的な中核機能（コーディネート機能）で対応した。

4. 有用性の検証

豊島区における有用性を検証するため、アンケートを実施した。また、振り返りなどを行った。

遠隔操作型分身ロボット雇用モデルの参加者は1名のため、個人の特定を防ぐため、回答が特定される蓋然性が高いアンケート回答事項については両モデルを合算して報告している。

また、コメントについて、個人が特定可能な箇所は一部読替や削除を行っている。未回答については「特になし」としている。

【出所資料】

(各モデル共通)

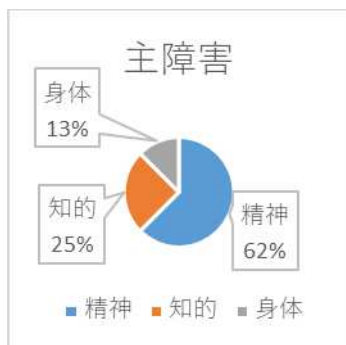
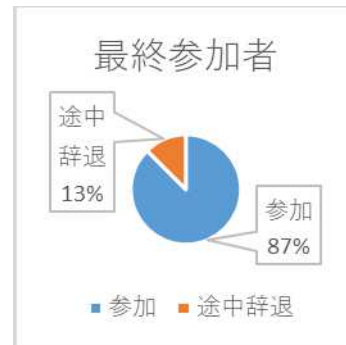
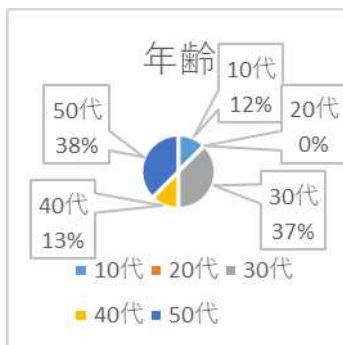
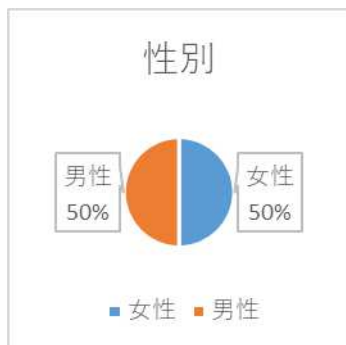
- ・豊島区障害者就労支援センター実証実験事前アンケート
- ・豊島区障害者就労支援センター実証実験事後アンケート
- ・各報道機関記事等

(遠隔操作型分身ロボット雇用モデルのみ)

- ・新たな障害者雇用モデル（遠隔操作型分身ロボット雇用モデル）アンケート

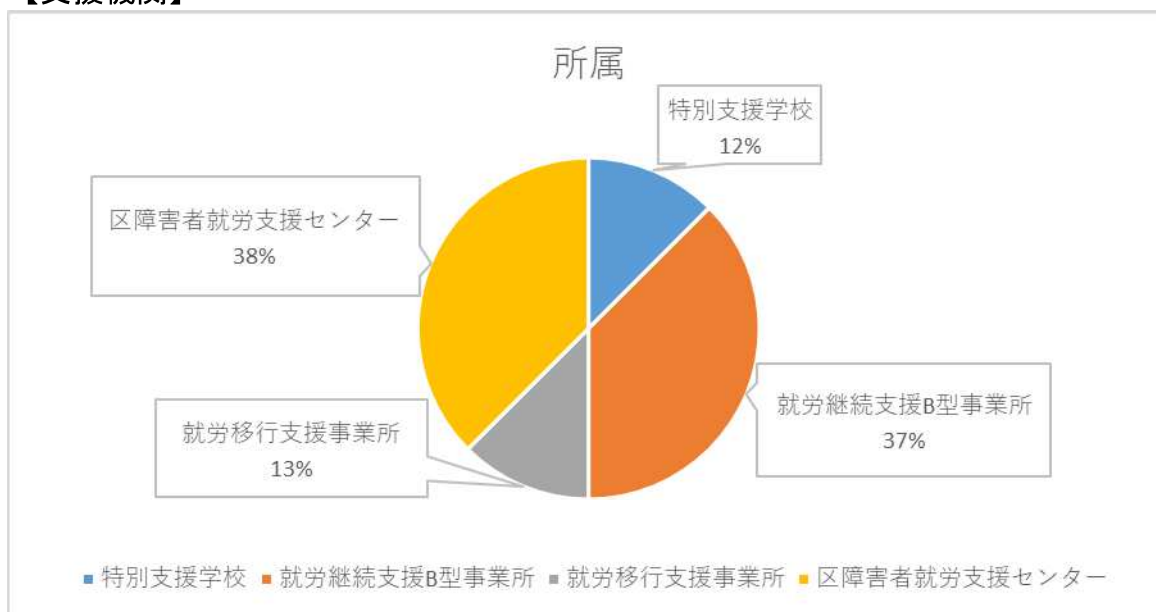
アンケート回答者は以下のとおりである。

【参加者】



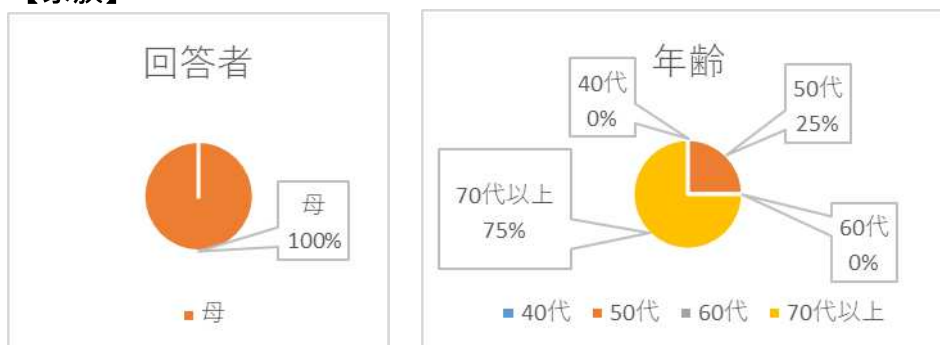
- ・実証実験参加者は合計 8 名、男女比は 5 : 5
- ・参加者の年齢は 10 代・40 代が各 1 名、30 代・50 代が各 3 名
- ・実証実験最終参加者は合計 7 名、1 名途中辞退
- ・主障害は、精神が 5 名、知的が 2 名、身体が 1 名

【支援機関】



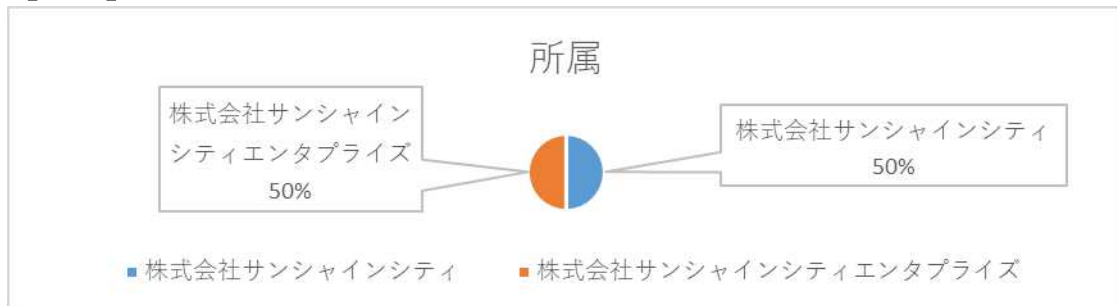
- ・支援機関の所属は、特別支援学校 1 名、就労継続支援 B 型事業所 3 名、就労移行支援事業所 1 名、区障害者就労支援センター 3 名

【家族】



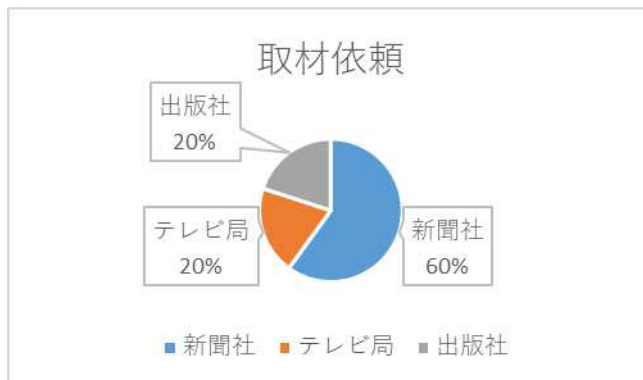
- ・回答者は 3 名、本人との関係性は 3 名とも母
- ・年齢は 50 代が 1 名、70 代以上が 2 名

【企業】



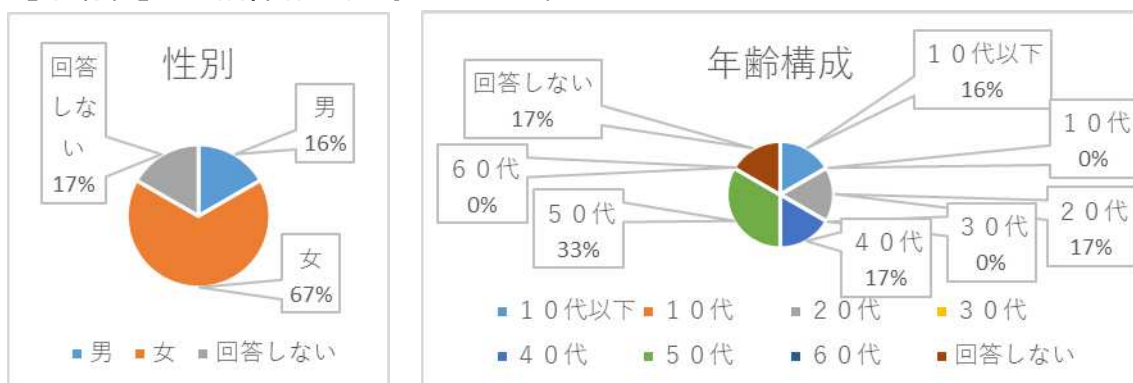
・「株式会社サンシャインシティ」「株式会社サンシャインエンタプライズ」の2社にアンケートを実施

【報道機関】



・計10社（新聞社6社、テレビ局2社、出版社2社）から実証実験について取材申込があった。

【来場者】（遠隔操作型分身ロボット雇用）



・回答者は6名、内訳は女性4名、男性1名、回答しない1名

・年齢構成は、10代以下1名、20代1枚、40代1名、50代2名、回答しない1名

(1) 定性的評価

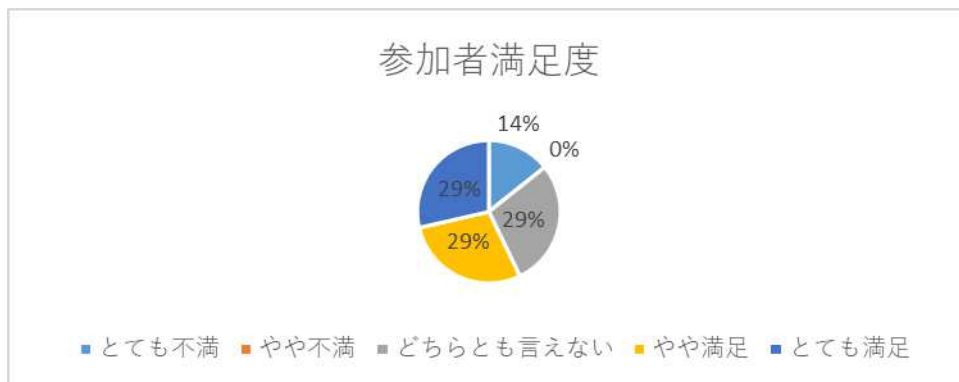
定性的評価は、主に事後アンケートと参加者等の所感から、その効果を可視化した。

①満足度

- ・全体の 53%が「とても満足」と評価（76%が「やや満足」以上）した。
- ・参加者・家族・支援者の満足度の高い実験だったと回答がある。
- ・参加者の満足度と比較して、家族・支援者の満足度が高い傾向にある。

【参加者】

設問：この仕事を振り返って、労働条件（仕事の負担、職場の整備、報酬など）について、どれくらい満足ですか？



（とても満足）

- ・報酬は該当しなかったが、出来たことが満足につながった。
- ・しごとがたのしかったです。

（やや満足）

・仕事は負担がなく、個別に仕切られた作業場所が用意されているのでとても働きやすかった。報酬が少し低いと感じたが、仕事内容を考えれば見合った額だとも思う。

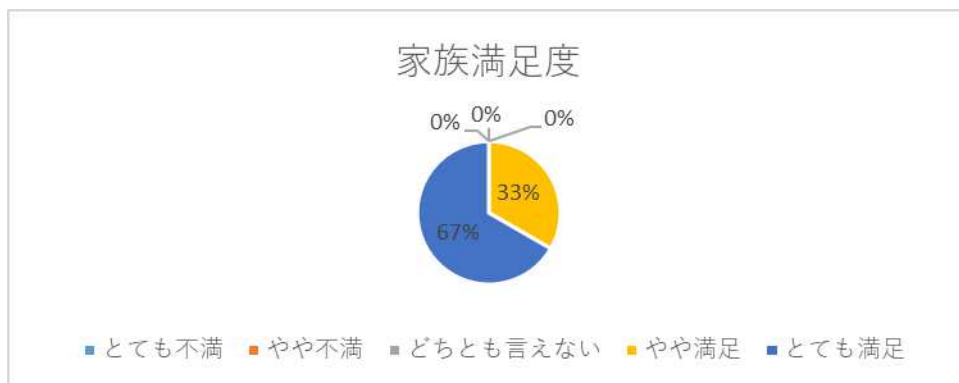
・働かせていただいてありがたかったですが、あと 1 時間あると仕事の充実感があがったのかなと思う。

（どちらともいえない・とても不満）

- ・特になし

【家族】

設問：実験に参加するご本人がこの仕事に参加したことについて、あなたはどれくらい満足していますか？



（とても満足）

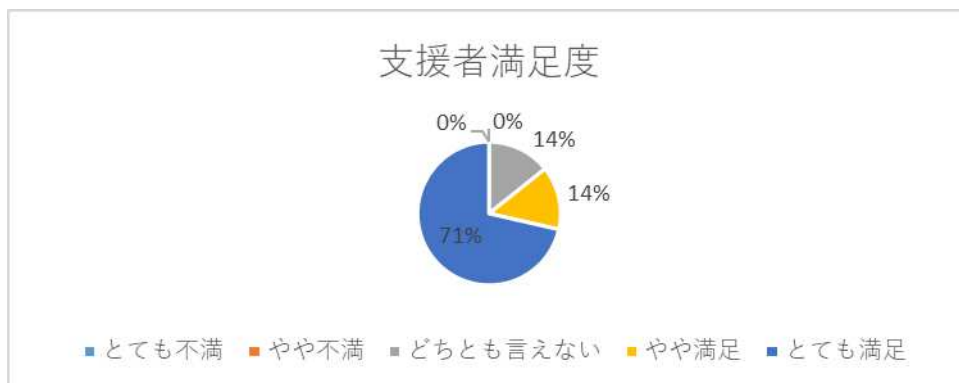
- ・以前からやりたかったことに取り組めたことはもちろん、支援機関のサポートがある中で機会をいただいたことは大変有難かったです。そのうえ、区の取り組みに参加できたことは本人にとっても有意義なものになったと思います。
- ・新しい仕事の中で学ぶことが多くあったように感じました。

（やや満足）

- ・自分なりに思うように出来た様です

【支援者】

設問：この実証実験に支援者として参加して、全体を振り返って満足していますか？



（とても満足）

- ・今後も自己研鑽の視点をもって、沢山の事を学び、成長する必要があります。そういった意味でも、達成感だけでなく、課題も見付けられた期間となりました。やりがいを見出せる実証実験だったと思いますのでありがとうございました。
- ・利用者の新たな姿を見られたため。

・参加した本人が、自分の成長を実感しており、参加できてよかったとのことだったので

・参加した本人が楽しく働けていたので

・特になし

(やや満足)

・本人が最後まで頑張れたことで、本人の自信がつながってよかった

・超短時間雇用という考え方を実際の業務とつなげて考えることができた

(どちらとも言えない)

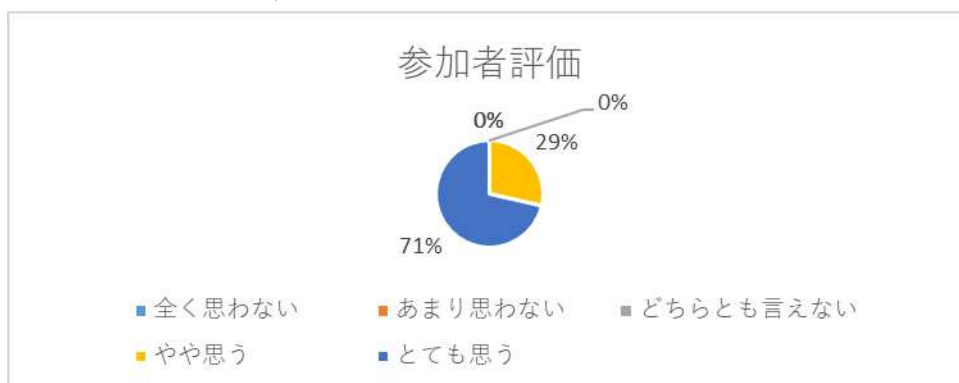
・振り返えられていない

②評価（成果・効果）

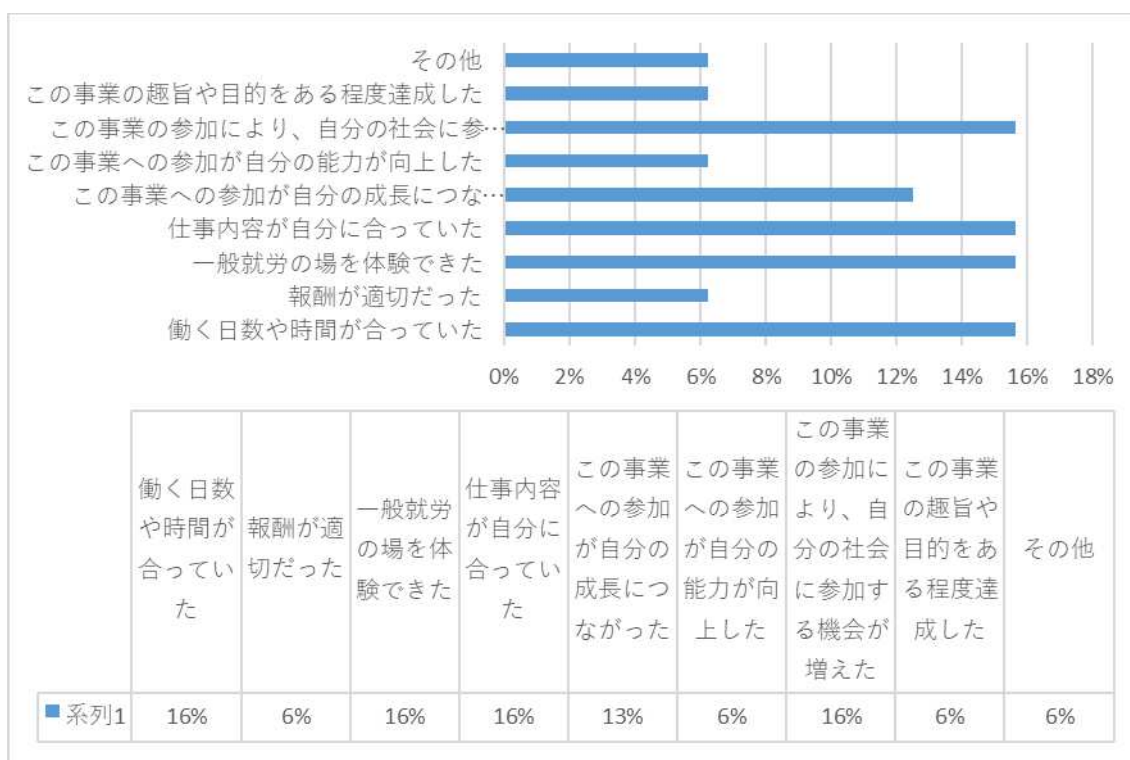
- ・全体の81%が成果・効果を「とても思う」（最高評価）と回答した。
- ・全ての回答で、成果・効果があったとなっている。
- ・参加者（障害者）、支援者よりも、家族、企業の評価が高い傾向にある。

【参加者】

設問：この実証実験に参加して、あなたにとって「成果や効果があった」と、どれくらい思いますか？



（理由）

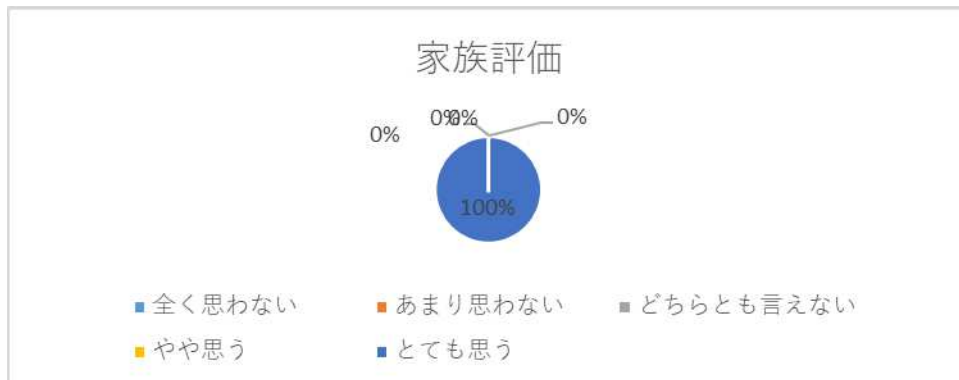


（その他）

- ・久しぶりの仕事でしたが、自信がつき就職に向けてやる気が出てきました。
- ・自分に自信がついた。働くことへの安心できた。

【家族】

設問：実験に参加するご本人が「この仕事を通して成長した」とどれくらい思いますか？

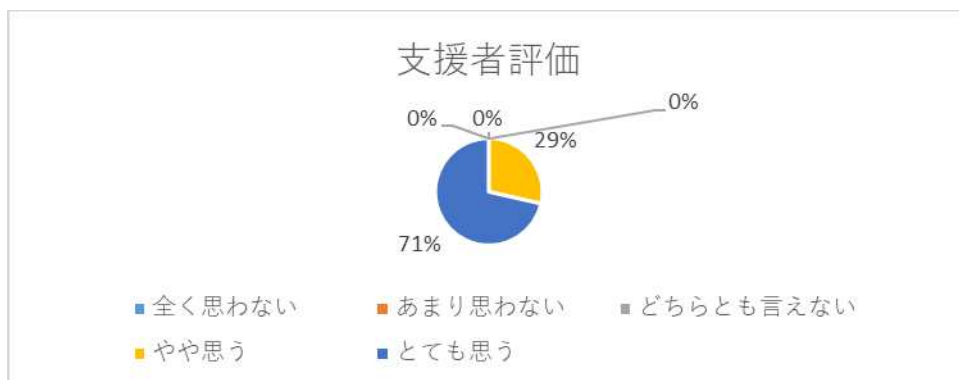


(理由)

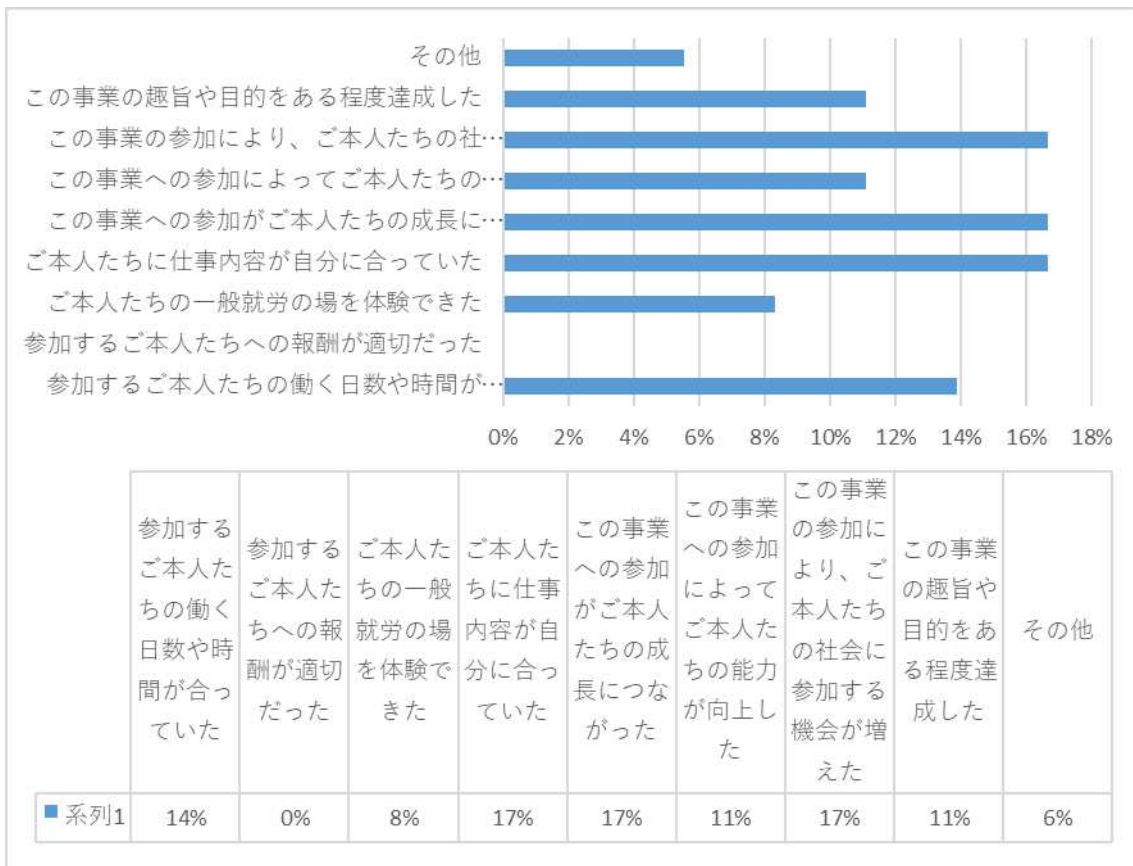
- ・スタート時は、言葉もなかなか出づらい部分もあったかと思いますが、コミュニケーション力も伸ばし、最終日には積極的に取り組む姿勢が見られたと思います。
- ・過去に業務の経験を身につけているので仕事が手早くする事が出来良かったと思います
- ・新しい環境で新しい人間関係の中で、仕事もできて初めは、戸惑いもあったようですができるようになったら楽しくなったと本人から聞きました。

【支援者】

設問：この実証実験に支援者として参加して、「成果・効果があった」とどの程度思いますか？



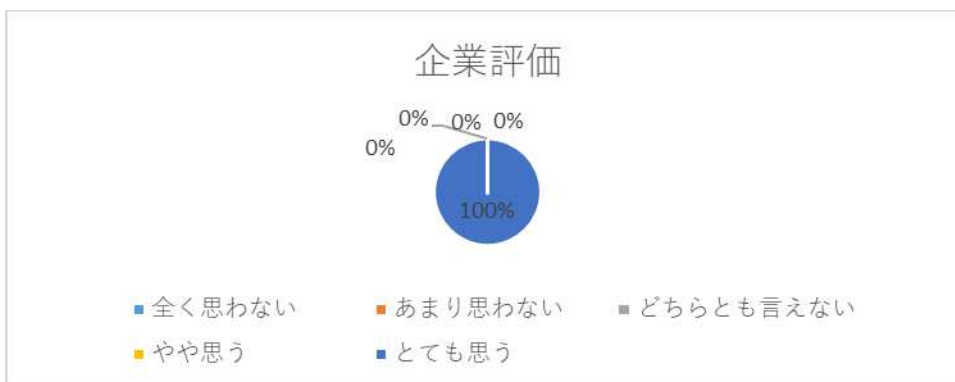
(理由)



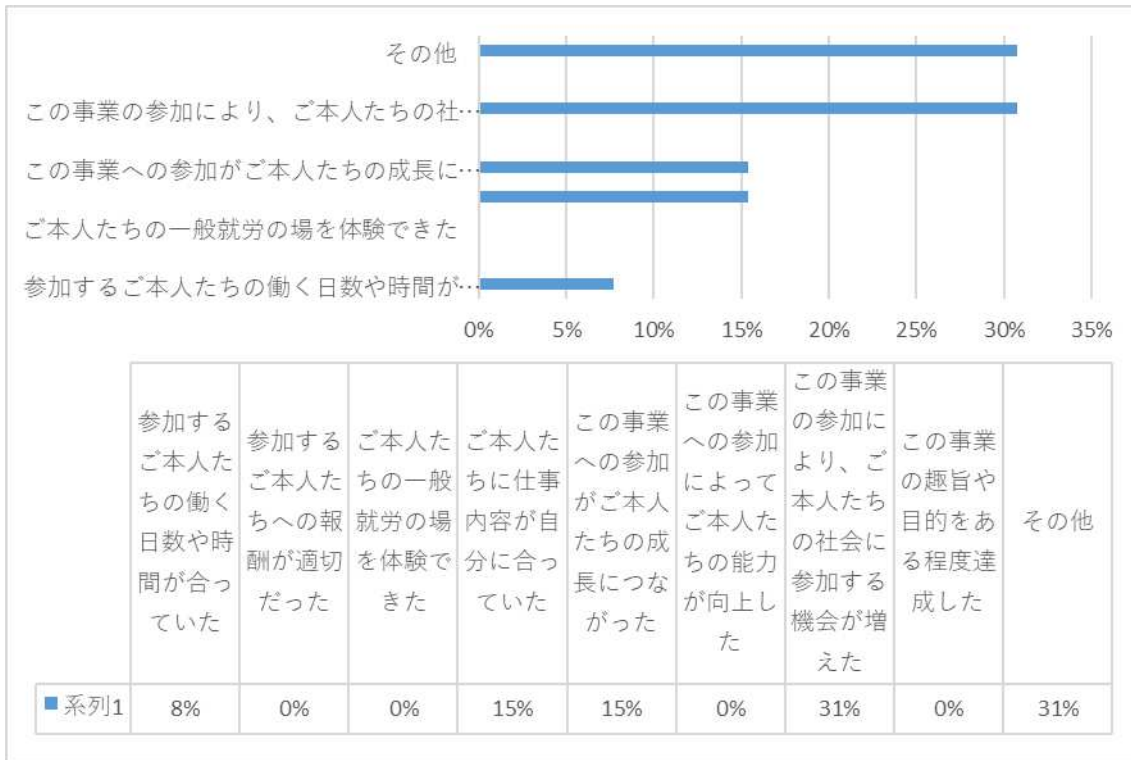
(その他)

- ・ オフィスで働くことで、日常の作業所での様子や意識が変化したため。
- ・ 自分の得意とする面を再確認することができたようで自信にもつながった

【企業】



(理由)



(その他)

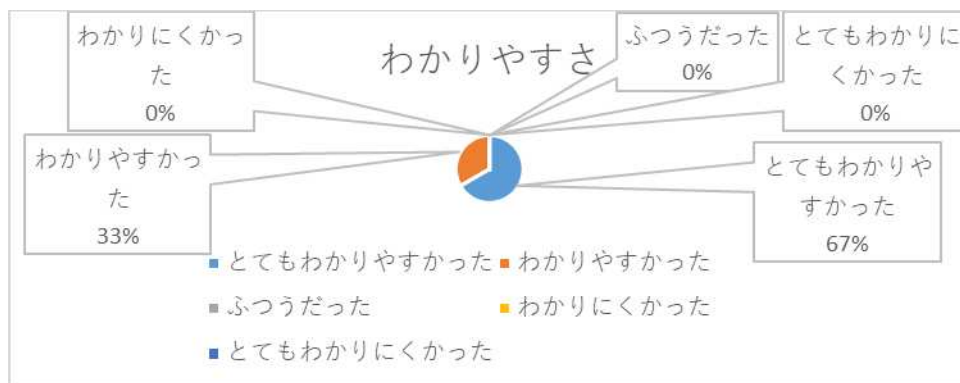
- ・ 障害者雇用について、改めて考察する機会になったこと
- ・ 障害者について学ぶ機会になったこと
- ・ 障害のある方とのコミュニケーションの場となったこと
- ・ フィールドとしても業務の切り出しから実施までの具体的なイメージにつながったので、いい機会となった。
- ・ 勤務者の方たちにとって今後の就労への自信やイメージにつながったのは大変よかった。また勤務者に焦点を置くのであれば働かれる方たちが就労において希望している条件(今後どういう働き方で、何をしたいか等)も事前にすり合わせられた方が実証実験としてはよかったのではないかと思います。

③外部評価（遠隔操作型分身ロボット雇用のみ）

- ・来場者の評価は全体的に好意的
- ・「わかりやすさ」より「満足度」の評価が高い傾向

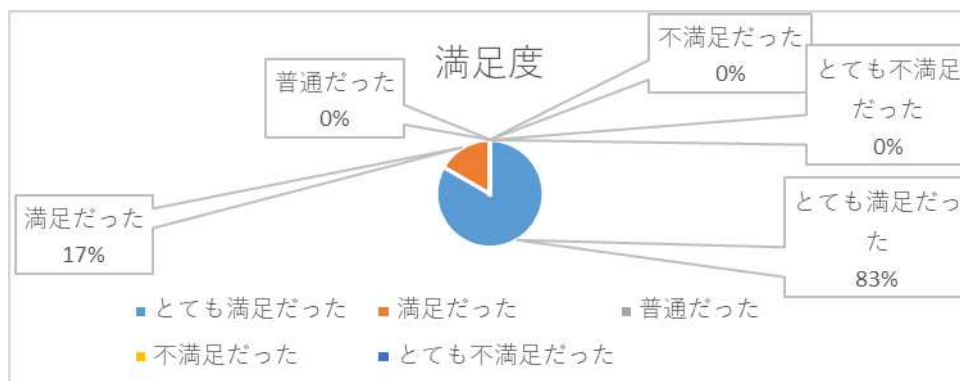
【来場者】

設問：分身ロボットを活用した説明、声かけはわかりやすかったですか？



- ・全員が、「とてもわかりやすかった」「わかりやすかった」と回答。

設問：分身ロボットを活用したご案内、声かけに満足されましたか？



- ・全員が、「とても満足だった」「満足だった」と回答

設問：分身ロボットを活用した会話や案内についての感想を自由にお聞かせください。

- ・もっと色々な場所に置いてあると良いと思いました。
- ・少し声が聞こえなかったけど会話はたのしかった。動きが可愛かった。話しやすかった。
- ・思った以上に音声も聞き取りやすく、とってもよかったです。今後、色々な場面での受付であればオリヒメで充分にできるんじゃないかと思いました。障害者雇用モデルとしてとてもいい取り組みだと思いました。

・おすすめの商品を聞いたところ、きちんと回答してくれて嬉しかったです。障害者雇用の新しい形として広がっていくことを望みます。

・このような取り組みに参加できたことがとても嬉しく感謝です。この素晴らしい取り組みは、ハンデを持つ方々の希望になります。実際の運用に向けて頑張ってください。

オリヒメロボットが思ったより小さくて、知らなかったらパンに集中して見逃していたかもしれないなとは感じました。またパイロットが操作し、皆さまに声を掛けていることがもっと分かりやすく表示してあったら良かったと思います。ただパイロットが緊張してしまう場合は不必要ですね。

何を聞いていいのかわからない方も多いと思うので、オススメの他にも例えばどんな味なのか、アレルギーのことなどこんなことも聞けますよ！と提示しておくと話しかけやすいかなと思いました。

分身ロボットの発展を願い、これからを期待しています。ありがとうございました。

(2) 定量的評価

定量的評価は、主に実証前アンケートと実証後アンケートを比較し、その効果の違いを数値化した。

- ・参加者の家族を含め、生活満足度が向上した。
- ・世帯（参加者と家族）の「生活満足度」が150%向上した。

【参加者】

設問：あなたは「社会に参加したい」「働きたい」という意欲（気持ち）は、どれくらいありますか？

※意欲の度合いによってポイント割振りし、合算で評価

項目	点数	回答数		計算	
		事前	事後	事前	事後
全くない	-2	0	1	0	-2
あまりない	-1	0	1	0	-1
どちらとも言えない	0	3	0	0	0
ややある	1	4	2	4	2
とてもある	2	1	3	2	6
計算				6	5

（＋ポイントの理由・事前）

- ・自分がやりたくて合うことがあればやってみたい。
- ・自分が出来る仕事で、日々過ごせるとストレスなく生きられるので
- ・働きたいという気持ちと働くことに対する不安があるから
- ・経済的に自立したいという気持ちがあるから

（＋ポイントの理由・事後）

- ・やりたいことがあり、自分が働いた収入で行いたいと思っているから
- ・仕事を終えた充実感は何物にも代えられないものだから。社会に参加できるのはありがたいことだから。
- ・働いて経済的に自立したいという気持ちがあるから。
- ・からだをうごかしたい

（－ポイントの理由・事後）

- ・障害福祉施設のみennaといたいから。
- ・特になし

●実証実験により、1ポイント意欲は低下（※）した

（※補足）

参加者の「社会に参加したい」「働きたい」という意欲の低下については、実証実験により具体的な就労のイメージを得たことで、就労準備性が高まったためと考えられる。（振り返り検証）

設問：あなたは現在の生活にどれくらい満足していますか？

※満足の度合いによってポイント割振りし、合算で評価

項目	点数	回答数		計算	
		事前	事後	事前	事後
とても不満	-2	0	0	0	0
やや不満	-1	1	1	-1	-1
どちらとも言えない	0	2	0	0	0
やや満足	1	2	3	2	3
非常に満足	2	2	3	4	6
計算				5	8

(+ポイントの理由・事前)

- ・理由は難しいそうです
- ・前より自分が出来る事が増えているし、自信もついてきた。後は仕事をするだけである。
- ・のんびりしています
- ・自分の好きなことができるから。

(-ポイントの理由・事前)

- ・安定してるから

(+ポイントの理由・事後)

- ・趣味とかを楽しんだりしているため。就活は実を結んでいないが、頑張っている。
- ・現状は自分に負担のかからない生活をしているが、将来への不安があるから。
- ・かぞくといわれるから
- ・お母さんと暮らせるから。
- ・特になし

(-ポイントの理由・事後)

- ・特になし

●実証実験により、3ポイント満足度は向上した

【家族】

設問：あなたは現在の生活にどれくらい満足していますか？

※満足の度合いによってポイント割振りし、合算で評価

項目	点数		回答数			計算	
			事前	事後		事前	事後
とても不満	-2		0	0		0	0
やや不満	-1		0	0		0	0
どちらとも言えない	0		1	0		0	0
やや満足	1		1	2		1	2
非常に満足	2		1	1		2	2
計算						3	4

●実証実験により、1 ポイント満足度は向上した

5. 今後の方向性

(1) 実証実験の成果

【豊島区障害者就労支援センター（豊島区）】

- ・実証実験の結果、「遠隔操作型分身ロボット雇用モデル」「超短時間雇用モデル（豊島区版）」は両モデルとも、実証実験の目的となる障害者の社会に参加する機会の創出につながり、意義のあるものになった。
- ・実証実験での体験によって、自身の成長、社会参加の機会などを得ることができ、本人のみではなくその家族の生活満足度も向上した。

【豊島区地域支援協議会就労支援部会（支援機関代表）】

令和6年11月、就労支援センターの実証実験として「遠隔就労」と「超短時間雇用」の実証実験を豊島区区内の民間企業と連携して行う事となり、就労支援部会として超短時間雇用希望者の募集や超短時間雇用を行うにあたっての準備等に携わらせていただいた。

超短時間雇用モデルの実証実験への参加希望者は8名あったが、実際は7名となった。

この7名は予定通りの業務を遂行し、最期に感想をいただきましたが全体を通して見えてきた物もあったように思えます。

- ・支援員側には「超短時間雇用」の趣旨や目的は理解していただけたが、当事者にはまだイメージが伝わっていなかった
- ・当事者にとっては訓練と雇用の違いはなく、遂行すべきタスクをこなすという状況は同じであった
- ・そのため訓練としての成果は「就労のイメージが付いた」「自分の現時点の評価に繋がった」「就労の可能性が見えた」「自分の課題が理解できた」などの主観的ではあるが前向きな自己評価に繋がった。これを今後の個人的な課題として取り組んでいき、将来的な就労に繋がる可能性が広がったと思われる。
- ・就労として考えた場合、「業務指示をする」「業務指示を受ける」などのコミュニケーションの濃淡が出てしまい、これをマニュアルで解消するには時間が必要である事がわかった。また、業務以外での通勤経路の説明が必要な人もいたり、どこまでを本人の責任でどこからが雇用側の責任とするかのラインが不明確であったため、就労準備性の高低によって対応が変わってしまったように感じた。

しかし、終わってみれば、支援者側も当事者も「成長」に繋がったとの評価が多く、雇用する企業側も就労する当事者側も「超短時間での雇用」という

選択肢があるという事の認識に繋がった事は大きな前進であると感じる。
これからの社会においては「はたらき方」を選択していくという時代が予想される中、社会参加を目的とした「はたらき方」も選択肢になっていくと思われる。
それを進めていくにはマッチングの重要性が改めて重要であることが判明し、そこにどうアプローチしていくか、誰がその任務を担うかなど課題も明確になった有意義な実験であったと感じている。

【株式会社サンシャインシティ（企業）】

SDGs 未来都市豊島区の企業として「障がいのある方とその家族が安心できる社会とのつながりをつくり、障がいのある方が活躍する社会を実現したい」という想いのもと、複合施設だからこそその就労価値があると考え、産官学民連携により新たな雇用モデルの実証実験に挑戦しました。
メディアからの反響も大きく、勤務された当事者の方々からも「自信が付き働くイメージがわいた」、「この頻度や働き方であれば続けられる」といった自信や自己理解につながる言葉を頂き、当社含めた中小企業の雇用促進や豊島区のインクルーシブな社会への足掛かりとなったと認識しております。

（２）見えてきた課題（地域開拓促進コーディネーター所感）

①「遠隔操作型分身ロボット雇用モデル」

今回使用したタイプのオリヒメロボットで対応可能な範囲が、対話による接客に限られるため、それに完全にマッチするような業務の切り出しが、必要となる。今回は1か月という実証実験期間の中で、設置場所を3カ所試してみるなど、試験的要素が強かった。そのため、各設置場所におけるロボットによる接客業務が、実際に「集客増」や「現場に出勤するスタッフの削減」というような、定量的な効果にはあらわれていない。むしろスタッフの負担という面では、パイロットのサポートにあたる業務も少なからず発生した。

話題性があり、企業のブランディング醸成は見込めるが、企業がロボットを導入する場合は、ロボットのできる業務にマッチするような業務の切り出しとその費用対効果を吟味すること、およびそのための十分な期間が必要であると考ええる。

②「超短時間雇用モデル（豊島区版）」

【各モデルのシフト（C）（D）（E）（F）】

超短時間雇用においては、振り返りの際に複数の参加者から、1日あたりの勤務可能時間・1週あたりの出勤可能日数等、自身の働き方に関する具体的なイメージが描けるようになったとの声があがった。

この点から、今回の実証実験は自己理解に一定の効果があつたことや、勤務時間の障壁を取り除くことは一般就労の可能性拡大につながる事がわかる。

一方で、支援者からは次のような意見も挙げられた。就労支援機関の利用者は、数週間単位の企業における職場体験実習等に参加することがあるが、短期間であるがゆえ、本人にとって困難な状況を調整せずに我慢してしまうことがある。また、体調に波がある場合、不安定な時期に勤務をした場合の状況が把握できないまま実習が終了してしまうこともある。その結果、就職後に企業と本人の間にミスマッチが生じてしまう事例も少なくない。

上記を踏まえると、本人と企業をつなぐ、コーディネート機能（中核機関）が重要である。今回の実証実験では、本人・企業間の勤務条件をすりあわせて調整する機会が十分でないまま実証期間が終了となっているため、困難が生じた際の調整方法の検討も含めた十分な検証を行うためには、コーディネート機能（中核機関）を明確にした上で、より長期間の実証をする必要となる。

【各モデルのシフト（A）（B）】

超短時間雇用では、振り返りの際に、自分は働くことができないと思っていたが、今回の実証実験を通して、自分は働くことができると気付くきっかけになったとの声があがった。

なお、支援者からは実証実験が始まる前に、全出勤日に参加することができると心配という声が一定数上がっており、実証実験参加者が全出勤日に出勤することに対してハードルがあるということが課題になると想定されていた。

しかし、今回の実証実験は、全出勤日に出勤することができた参加者が多かった。支援者と振り返り分析をしてみると、その理由として、今回の実証実験では一か月という限られた期間であつたため、出勤日が少なく、参加者が過剰適用※したことが考えられた。実際に、企業等で働く状況に近い形で効果検証を行うためには、より長時間の実証をする必要があるといえる。

※過剰適用：周囲の期待や要求に過度に自分を合わせようとする心の状態

（３）今後の方向性

今回の実証実験の試みを契機とし、障害者雇用への社会的関心の更なる向上を図る。地域と連携した障害者雇用の機会の創出につなげるため、今後も公民連携型の実装実験として、「フィールド」「参加人数」「検証期間」等を拡大して展開していく。

6. 資料

- ・ アンケート資料

【事前・事後のアンケートへのご協力をお願い】

この度は、豊島区障害者就労支援センターの実証実験にご参加くださり、誠にありがとうございます。
皆さんがお仕事に「参加する前」と「参加した後」の合計2回のアンケートにご協力いただけるようお願いいたします。アンケートの結果は報告書としてまとめ、皆様に報告いたします。また、この成果を今後のより良い障害者就労支援に活かしてまいります。

なお、このアンケートの結果は、個人が特定されない(誰が答えたかはわからない)ように、統計的に処理されます。どうぞ安心してご回答ください。

質問の内容で、ご不明な点がございましたら、ご所属先の事業所の担当職員や学校の先生にお聞きいただくか、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

豊島区障害者就労支援センター
〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1 庁舎 4 階
電話 03-3985-8330 FAX 03-3981-4303

＜ご回答にあたり、本日の日にちをお書きください＞

2024 年 月 日

＜以下の質問に黒のボールペンでご回答ください。所要時間は 15 分から 20 分程度を予想しています＞

Q1 あなたのご所属先をお教えてください。あてはまる番号に○をつけてください。複数の事業所に所属している場合は、今回、仕事（実証実験）の紹介を受けた事業所の番号に○をつけてください。

- ① 特別支援学校
- ② 就労継続支援 B 型事業所
- ③ 就労移行支援事業所
- ④ 地域活動支援センター
- ⑤ 生活介護事業所
- ⑥ その他 具体的に下記にお書きください。

Q2 あなたの性別をお教えてください

- ① 女性
② 男性
③ その他

Q3 あなたのご年齢はおいくつですか。当てはまる番号に○をつけてください。

- ① 10 代
- ② 20 代
- ③ 30 代
- ④ 40 代
- ⑤ 50 代
- ⑥ 60 代

Q4 今回この仕事に参加した理由をお教えてください。
以下のうち、当てはまる番号 全部に○をつけてください。

- ① 働く日数や時間が自分に合っていたから
- ② 報酬(賃金)が魅力的だったから
- ③ 一般就労を希望していたから
- ④ 仕事の内容が自分に合っていたから
- ⑤ 自分の成長につながったと思ったから
- ⑥ 自分の能力の向上になったと思ったから
- ⑦ 社会にもっと参加したいから
- ⑧ その他: 以下に具体的にお書きください。

()

Q5 この仕事をするにあたって、どれくらい不安ですか？

「1」を「全く不安はない」「5」を「非常に不安である」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① 全く不安はない
- ② あまり不安はない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや不安がある
- ⑤ とても不安がある

その理由を教えてください。

Q6 この仕事に参加するのは、どれくらい楽しみですか？

「1」を「全く楽しみではない」、「5」を「とても楽しみである」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① 全く楽しみでない
- ② あまり楽しみでない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや楽しみである
- ⑤ とても楽しみである

その理由を教えてください。

Q7 あなたは「社会に参加したい」「働きたい」という意欲(気持ち)は、どれくらいありますか？

- ① 全くない
- ② あまりない
- ③ どちらとも言えない
- ④ ややある
- ⑤ とてもある

その理由を教えてください。

Q8 あなたは現在の生活にどれくらい満足していますか？

- ① 非常に満足
- ② やや満足
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや不満
- ⑤ とても不満

その理由を教えてください。

<事前アンケートは以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました>

【事前・事後のアンケートへのご協力をお願い】

この度は、豊島区障害者就労支援センターの実証実験にご協力くださり、誠にありがとうございます。
ご本人様がお仕事に「参加する前」と「参加した後」に合計2回、ご家族様を対象としたアンケートにご協力いただけるようお願いいたします。

なお、このアンケートの結果は、個人が特定されない(誰が答えたかはわからない)ように、統計的に処理されます。どうぞ安心してご回答ください。

質問の内容で、ご不明な点がございましたら、ご所属先の事業所の担当職員や学校の先生にお聞きいただくか、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

豊島区障害者就労支援センター
〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1 庁舎 4 階
電話 03-3985-8330 FAX 03-3981-4303

＜ご回答にあたり、本日の日にちをお書きください＞

2024 年 月 日

＜以下の質問に黒のボールペンでご回答ください。所要時間は 5 分から 10 分程度を予想しています＞

Q1 実験に参加するご本人の所属先をお教えてください。あてはまる番号に○をつけてください。複数の事業所に所属している場合は、今回、仕事(実証実験)の紹介を受けた事業所の番号に○をつけてください。

- ① 特別支援学校
- ② 就労継続支援 B 型事業所
- ③ 就労移行支援事業所
- ④ 地域活動支援センター
- ⑤ 生活介護事業所
- ⑥ その他 具体的に下記にお書きください。

Q2 実験に参加するご本人とあなたの関係性をお教えてください。当てはまる番号に○をつけてください。

- ① 父
② 母
③ 兄

豊島区就労支援センター事前アンケート 超短時間・遠隔 ご家族様対象 ID:

- ④ 姉
- ⑤ 弟
- ⑥ 妹
- ⑦ その他()

Q3 あなたのご年齢はおいくつですか。当てはまる番号に○をつけてください。

- ① 20 代
- ② 30 代
- ③ 40 代
- ④ 50 代
- ⑤ 60 代
- ⑥ 70 代以上

Q4 実験に参加するご本人がこの仕事をするにあたって、あなたはどれくらい不安に感じていますか？
「1」を「全く不安はない」「5」を「非常に不安である」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① 全く不安はない
- ② あまり不安はない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや不安がある
- ⑤ とても不安がある

その理由を教えてください。

--

Q6 実験に参加するご本人がこの仕事をするにあたって、あなたはどれくらい期待していますか？
「1」を「全く期待していない」、「5」を「とても期待している」として、あなたのお気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

豊島区就労支援センター事前アンケート 超短時間・遠隔 ご家族様対象 ID:

- ① 全く期待していない
- ② あまり期待していない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや期待している
- ⑤ とても期待している

その理由を教えてください。

Q8 あなたは現在の生活にどれくらい満足していますか？

- ⑥ 非常に満足
- ⑦ やや満足
- ⑧ どちらとも言えない
- ⑨ やや不満
- ⑩ とても不満

<事前アンケートは以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました>

【事前・事後のアンケートへのご協力のお願い】

この度は、豊島区障害者就労支援センターの実証実験にご協力くださり、誠にありがとうございます。ご本人様がお仕事に「参加する前」と「参加した後」に合計2回、支援いただく学校や事業所の支援担当者様を対象としたアンケートにご協力いただけるようお願いいたします。アンケートの結果は報告書としてまとめ、皆様に報告いたします。また、この成果を今後のより良い障害者就労支援に活かしてまいります。なお、このアンケートの結果は、個人が特定されない(誰が答えたかはわからない)ように、統計的に処理されます。どうぞ安心してご回答ください。ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

豊島区障害者就労支援センター
〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1 庁舎 4 階
電話 03-3985-8330 FAX 03-3981-4303

＜ご回答にあたり、本日の目にちをお書きください＞

2024 年 月 日

＜以下の質問に黒のボールペンでご回答ください。所要時間は 10 分から 15 分程度を予想しています＞
回答にあたっては、支援担当者個人の考えで回答していただいて結構です。

Q1 あなた様の所属先をお教えてください。あてはまる番号に○をつけてください。

- ① 特別支援学校
- ② 就労継続支援 B 型事業所
- ③ 就労移行支援事業所
- ④ 地域活動支援センター
- ⑤ 生活介護事業所
- ⑥ その他 具体的に下記にお書きください。()

Q2 この実証実験に支援者として参加した理由をお教えてください。当てはまる番号全部に○をつけてください。

- ① 参加する本人たちの働く日数や時間が合っていると思ったから
- ② 参加するご本人たちへの報酬(賃金)が魅力的だったから
- ③ ご本人たちが一般就労を希望しているから
- ④ ご本人たちが行う仕事内容が合っていると思ったから
- ⑤ この事業への参加がご本人たちの成長につながったと思ったから
- ⑥ この事業への参加がご本人たちの能力の向上になると思ったから
- ⑦ この事業の参加により、ご本人たちの社会にもっと参加する機会を増やしたいから
- ⑧ この事業の趣旨や目的に賛同したから

⑨ その他: 以下に具体的にお書きください。

Q3 この実証実験に支援者として参加するにあたって、どれくらい不安がありますか？

「1」を「全く不安はない」「5」を「非常に不安である」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① 全く不安はない
- ② あまり不安はない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや不安がある
- ⑤ とても不安がある

その理由を教えてください。

--

Q4 この実証実験に支援者として参加するにあたり、どれくらい期待していますか？

「1」を「全く期待していない」、「5」を「とても期待している」として、あなたのお気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① 全く期待していない
- ② あまり期待していない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや期待している
- ⑤ とても期待している

その理由を教えてください。

--

Q5 障害者の一般就労に関して貴事業所等や地域における課題について、担当者としてのお考えをお教えてください。当てはまる番号全てに○をしてください。

- ① 事業所や学校内での一般就労に関する情報が不足している
- ② 事業所や学校内での一般就労に向けた当事者むけのプログラムが不足している
- ③ 事業所や学校内での一般就労に向けた担当者むけのプログラムが不足している
- ④ 職員や教員の一般就労に向けた専門的な知識や技術の習得する機会が不足している
- ⑤ 地域や社会における障害者雇用に関する周知・理解が不十分である
- ⑥ 地域や社会における支援体制が不十分である
- ⑦ その他(具体的にお書きください)

--

<事前アンケートは以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました>

【事前・事後のアンケートへのご協力のお願い】

この度は、豊島区障害者就労支援センターの実証実験にご協力くださり、誠にありがとうございます。
実際に障害当事者が「参加する前」と「参加した後」に合計2回、ご参加いただく企業担当者様を対象としたアンケートにご協力いただけるようお願いいたします。アンケートの結果は報告書としてまとめ、皆様に報告いたします。また、この成果を今後のより良い障害者雇用支援に活かしてまいります。なお、このアンケートの結果は、個人が特定されない(誰が答えたかはわからない)ように、統計的に処理されます。どうぞ安心してご回答ください。ご不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

豊島区障害者就労支援センター
〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1 庁舎 4 階
電話 03-3985-8330 FAX 03-3981-4303

<ご回答にあたり、本日の日にちをお書きください>

2024 年 月 日

<以下の質問に黒のボールペンでご回答ください>

回答にあたっては、企業担当者個人の考えで回答していただいて結構です。

Q1 現在の御社の障害者雇用人数をお教えてください。
(特例子会社がある場合は雇用人数に参入してください)
障害者雇用人数;()人

Q2 この実証実験に参加した理由をお教えてください。当てはまる番号全てに○をつけてください。

- ① 自社の障害者雇用に際して、雇用日数や時間が合っていると思ったから
- ② 参加するに際しての費用(コスト)が適切だと思ったから
- ③ 自社における障害者雇用をより促進したいから
- ④ 自社において想定される障害者の仕事内容と合致していると思ったから
- ⑤ 障害者雇用に対する社内の理解につながったと思ったから
- ⑥ 障害者雇用に際して担当者に求められる能力の向上になったと思ったから
- ⑦ この事業の趣旨や目的に賛同したから
- ⑧ その他: 以下に具体的にお書きください。

<次ページにお進みください>

Q3 この実証実験に参加するにあたって、どれくらい不安がありますか？「1」を「全く不安はない」「5」を「非常に不安である」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① 全く不安はない
- ② あまり不安はない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや不安がある
- ⑤ とても不安がある

その理由を教えてください。

--

Q4 この実証実験に参加するにあたり、この事業に対してどれくらい期待していますか？
「1」を「全く期待していない」、「5」を「とても期待している」として、あなたのお気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① 全く期待していない
- ② あまり期待していない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや期待している
- ⑤ とても期待している

その理由を教えてください。

--

Q5 障害者雇用に関する御社の現状についてどの程度満足していますか？

- ① 非常に満足
- ② やや満足
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや不満
- ⑥ とても不満

その理由を教えてください。

--

Q6 障害者雇用に関する御社の課題について当てはまる番号全てに○をつけてください。

- ① 費用がかかりすぎる
- ② 社内の理解が不十分である
- ③ 社内の環境整備が不十分である
- ④ 障害者雇用の実績が少なく、受け入れに不安がある
- ⑤ 障害者にしてもらう仕事の切り出しが難しい
- ⑥ その他 具体的にお書きください。

--

【事前・事後のアンケートへのご協力をお願い】

この度は、豊島区障害者就労支援センターの実証実験にご参加くださり、誠にありがとうございます。
皆さんがお仕事に「参加する前」と「参加した後」の合計2回のアンケートにご協力いただけるようお願いいたします。アンケートの結果は報告書としてまとめ、皆様に報告いたします。また、この成果を今後のより良い障害者就労支援に活かしてまいります。

なお、このアンケートの結果は、個人が特定されない(誰が答えたかはわからない)ように、統計的に処理されます。どうぞ安心してご回答ください。

質問の内容で、ご不明な点がございましたら、ご所属先の事業所の担当職員や学校の先生にお聞きいただくか、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

豊島区障害者就労支援センター
〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1 庁舎 4 階
電話 03-3985-8330 FAX 03-3981-4303

＜ご回答にあたり、本日の日にちをお書きください＞

2024 年 月 日

＜以下の質問に黒のボールペンでご回答ください。所要時間は 30 分程度を予想しています＞

Q1 あなたのご所属先をお教えてください。あてはまる番号に○をつけてください。複数の事業所に所属している場合は、今回、仕事（実証実験）の紹介を受けた事業所の番号に○をつけてください。

- ① 特別支援学校
- ② 就労継続支援 B 型事業所
- ③ 就労移行支援事業所
- ④ 地域活動支援センター
- ⑤ 生活介護事業所
- ⑥ その他 具体的に下記にお書きください。

Q2 あなたの性別をお教えてください

- ① 女性
② 男性
③ その他

Q3 あなたのご年齢はおいくつですか。当てはまる番号に○をつけてください。

- ① 10 代
- ② 20 代
- ③ 30 代
- ④ 40 代
- ⑤ 50 代
- ⑥ 60 代

Q4 この仕事を振り返って、労働条件(仕事の負担、職場の設備、報酬など)について、どれくらい満足ですか? 「1」を「とても不満」「5」を「とても満足」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① とても不満
- ② やや不満
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや満足
- ⑤ とても満足

その理由を教えてください。

--

Q5 この仕事における人間関係について、どれくらい満足ですか?
「1」を「とても不満」「5」を「とても満足」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① とても不満
- ② やや不満
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや満足
- ⑤ とても満足

その理由を教えてください。

--

Q6 あなたはこの仕事におけるコミュニケーション(支援担当者、区担当者、企業担当者、お客様等との意志の疎通)について、どれくらい満足ですか？

「1」を「とても不満」「5」を「とても満足」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① とても不満
- ② 不満である
- ③ どちらとも言えない
- ④ 満足である
- ⑤ とても満足である

その理由を教えてください。

Q7 あなたはこの仕事におけるサポート体制(育成や心身への配慮)について、どれくらい満足ですか？

「1」を「とても不満」「5」を「とても満足」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① とても不満
- ② やや不満である
- ③ どちらとも言えない
- ④ 満足である
- ⑤ とても満足である

その理由を教えてください。

Q8 この実証実験に参加して、あなたにとって「成果や効果があった」と、どれくらい思いますか？

- ① 全く思わない
- ② あまり思わない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや思う
- ⑤ とても思う

Q9 その理由について当てはまる番号全部に○をつけてください。

- ① 働く日数や時間が合っていた
- ② 報酬が適切だった
- ③ 一般就労の場を体験できた
- ④ 仕事内容が自分に合っていた
- ⑤ この事業への参加が自分の成長につながった
- ⑥ この事業への参加が自分の能力が向上した
- ⑦ この事業の参加により、自分の社会に参加する機会が増えた
- ⑧ この事業の趣旨や目的をある程度達成した
- ⑨ その他: 以下に具体的にお書きください。

--

Q9 あなたは「社会に参加したい」「働きたい」という意欲(気持ち)は、どれくらいありますか？

- ① 全くない
- ② あまりない
- ③ どちらとも言えない
- ④ ややある
- ⑤ とてもある

その理由を教えてください。

Q10 あなたはこの仕事に参加して全体として満足していますか？

- ① とても不満
- ② やや不満
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや満足
- ⑤ とても満足

その理由を教えてください。

Q11 あなたは現在の生活にどれくらい満足していますか？

- ① とても不満
- ② やや不満
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや満足
- ⑥ とても満足

その理由を教えてください。

豊島区障害者就労支援センター実証実験事後アンケート ご本人対象 ID:

Q12 今回の実証実験に参加して、感じたこと、考えたことを自由にお書きください。

--

<事後アンケートは以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました>

【事前・事後のアンケートへのご協力をお願い】

この度は、豊島区障害者就労支援センターの実証実験にご協力くださり、誠にありがとうございます。
ご本人様がお仕事に「参加する前」と「参加した後」に合計2回、ご家族様を対象としたアンケートにご協力いただけるようお願いいたします。

なお、このアンケートの結果は、個人が特定されない(誰が答えたかはわからない)ように、統計的に処理されます。どうぞ安心してご回答ください。

質問の内容で、ご不明な点がございましたら、ご所属先の事業所の担当職員や学校の先生にお聞きいただくか、下記の問い合わせ先までご連絡ください。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

豊島区障害者就労支援センター
〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1 庁舎 4 階
電話 03-3985-8330 FAX 03-3981-4303

＜ご回答にあたり、本日の日にちをお書きください＞

2024 年 月 日

＜以下の質問に黒のボールペンでご回答ください。所要時間は 5 分から 10 分程度を予想しています＞

Q1 実験に参加するご本人の所属先をお教えてください。あてはまる番号に○をつけてください。複数の事業所に所属している場合は、今回、仕事(実証実験)の紹介を受けた事業所の番号に○をつけてください。

- ① 特別支援学校
- ② 就労継続支援 B 型事業所
- ③ 就労移行支援事業所
- ④ 地域活動支援センター
- ⑤ 生活介護事業所
- ⑥ その他 具体的に下記にお書きください。

()

豊島区就労支援センター事後アンケート 超短時間・遠隔 ご家族様対象 ID:

Q2 実験に参加するご本人とあなたの関係性をお教えてください。当てはまる番号に○をつけてください。

- ① 父
- ② 母
- ③ 兄
- ④ 姉
- ⑤ 弟
- ⑥ 妹
- ⑦ その他()

Q3 あなたのご年齢はおいくつですか。当てはまる番号に○をつけてください。

- ① 20 代
- ② 30 代
- ③ 40 代
- ④ 50 代
- ⑤ 60 代
- ⑥ 70 代以上

Q4 実験に参加するご本人が「この仕事を通して成長した」とどれくらい思いますか？__

「1」を「全く思わない」「5」を「とても思う」としてあなたの気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① 全く思わないない
- ② あまり思わない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや思う
- ⑤ とても思う

その理由を教えてください。

--

豊島区就労支援センター事後アンケート 超短時間・遠隔 ご家族様対象 ID:

Q5 実験に参加するご本人がこの仕事に参加したことについて、あなたはどれくらい満足していますか？
「1」を「とても不満」、「5」を「とても満足」として、あなたのお気持ちに最も当てはまる番号に○をしてください。

- ① とても不満
- ② やや不満
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや満足
- ⑤ とても満足

その理由を教えてください。

--

Q6 あなたは現在の生活にどれくらい満足していますか？

- ① とても不満
- ② やや不満
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや満足
- ⑤ とても満足

Q7 今回の実証実験に参加してご家族として、感じたこと、考えたことを自由にお書きください。

--

<事後アンケートは以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました>

豊島区就労支援センター事後アンケート 超短時間・遠隔 支援者・学校様 ID:

Q3 この実証実験に支援者として参加して、実験の実施期間中、実施期間後について改善した方が良く
と思うことを率直にお書きください。

Q4 この実証実験に支援者として参加して、「成果・効果があった」とどの程度思いますか？

- ① 全く思わない
- ② あまり思わない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや思う
- ⑤ とても思う

Q5 その理由について当てはまる番号全部に○をつけてください。

- ① 参加する本人たちの働く日数や時間が合っていた
- ② 参加するご本人たちへの報酬が適切だった
- ③ ご本人たちの一般就労の希望に応えた
- ④ ご本人たちに仕事内容が合っていた
- ⑤ この事業への参加がご本人たちの成長につながった
- ⑥ この事業への参加によってご本人たちの能力の向上につながった
- ⑦ この事業の参加により、ご本人たちの社会に参加する機会が増えた
- ⑧ この事業の趣旨や目的をある程度達成した
- ⑨ その他: 以下に具体的にお書きください。

Q6 障害者の一般就労に関して、この実証実験の参加を通し、あらためて見えてきた課題について、担当者としてのお考えをお教えてください。当てはまる番号全てに○をしてください。

- ① 事業所や学校内での一般就労に関する情報が不足している
- ② 事業所や学校内での一般就労に向けた当事者むけのプログラムが不足している
- ③ 事業所や学校内での一般就労に向けた担当者むけのプログラムが不足している
- ④ 職員や教員の一般就労に向けた専門的な知識や技術の習得する機会が不足している
- ⑤ 地域や社会における障害者雇用に関する周知・理解が不十分である
- ⑥ 地域や社会における支援体制が不十分である
- ⑦ その他(具体的にお書きください)

Q7 この実証実験に支援者として参加して、全体を振り返って満足していますか？

- ① とても不満
- ② やや不満
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや満足
- ⑤ とても満足

その理由を教えてください。

豊島区就労支援センター事後アンケート 超短時間・遠隔 支援者・学校様 ID:

Q8 今回の実証実験に参加して、支援者として感じたこと、考えたことを自由にお書きください。

<事後アンケートは以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました>

【事前・事後のアンケートへのご協力をお願い】

この度は、豊島区障害者就労支援センターの実証実験にご協力くださり、誠にありがとうございます。
実際に障害当事者が「参加する前」と「参加した後」に合計2回、ご参加いただく企業担当者様を対象としたアンケートにご協力いただけるようお願いいたします。アンケートの結果は報告書としてまとめ、皆様に報告いたします。また、この成果を今後のより良い障害者雇用支援に活かしてまいります。なお、このアンケートの結果は、個人が特定されない(誰が答えたかはわからない)ように、統計的に処理されます。どうぞ安心してご回答ください。ご不明な点がありましたら、下記までご連絡ください。

【アンケートに関するお問い合わせ先】

豊島区障害者就労支援センター
〒171-8422 豊島区南池袋 2-45-1 庁舎 4 階
電話 03-3985-8330 FAX 03-3981-4303

＜ご回答にあたり、本日の日にかきをお書きください＞

2024 年 月 日

＜以下の質問に黒のボールペンでご回答ください＞

回答にあたっては、企業担当者個人の考えで回答していただいて結構です。

Q1 この実証実験に参加して、事前の準備について改善した方が良いと思うことを率直にお書きください。

Q2 この実証実験に参加して、実験の実施期間中、実施期間後について改善した方が良いと思うことを率直にお書きください。

Q3 この実証実験に参加して、「成果・効果があった」とどの程度思いますか？

- ① 全く思わない
- ② あまり思わない
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや思う
- ⑤ とても思う

Q4 その理由について当てはまる番号全部に○をつけてください。

- ① 参加する本人たちの働く日数や時間が合っていた
- ② 参加するご本人たちへの報酬が適切だった
- ③ ご本人たちの一般就労の希望に応えた
- ④ ご本人たちに仕事内容が合っていた
- ⑤ この事業への参加がご本人たちの成長につながった
- ⑥ この事業への参加によってご本人たちの能力の向上につながった
- ⑦ この事業の参加により、ご本人たちの社会に参加する機会が増えた
- ⑧ この事業の趣旨や目的をある程度達成した
- ⑨ その他: 以下に具体的にお書きください。

--

Q5 障害者雇用に関する御社の現状についてどの程度満足していますか？

- ① 非常に満足
- ② やや満足
- ③ どちらとも言えない
- ④ やや不満
- ⑤ とても不満

その理由を教えてください。

--

Q6 この実証実験の参加を通し、あらためて見えてきた障害者雇用に関する御社の課題について、当てはまる番号全てに○をつけてください。

- ① 費用がかかりすぎる
- ② 社内の理解が不十分である
- ③ 社内の環境整備が不十分である
- ④ 障害者雇用の実績が少なく、受け入れに不安がある
- ⑤ 障害者にしてもらう仕事の切り出しが難しい
- ⑥ その他 具体的にお書きください。

Q7 今回の実証実験に参加して、担当者として感じたこと、考えたことを自由にお書きください。

<事後アンケートは以上です。ご協力いただき、誠にありがとうございました>

実証実験協力機関など

- ・豊島区地域支援協議会就労支援部会
部 会 長 藤本 知哉
副部長 近藤 友克
 - ・株式会社 サンシャインシティ
総務部 ミドルマネージャー 大村 有佳
総務部 浅野 美咲
総務部 石井 恵美
 - ・株式会社 サンシャインエンタプライズ
総務部 部長 林 裕子
スタッフコミュニケーション部 部長 小林 芳之
 - ・立教大学
コミュニティ福祉学部 助教 鈴木 あおい
 - ・株式会社オリィ研究所
OriHime 事業部 サービス開発チーム 部長 相嘉 駿甫
OriHime 事業部 サービス開発チーム 仁木 和也
 - ・近藤 武夫（東京大学先端科学技術研究センター 社会包摂システム分野 教授）
松清 あゆみ（東京大学先端科学技術研究センター 社会包摂システム分野 特任助教）
 - ・東京都立北特別支援学校
進路指導コーディネーター 東 慎治
進路指導部高等部学年担当 教諭 烏田 慈生
 - ・東日本電信電話株式会社
東京北支店 岩崎 晶子
東京北支店 高田 理希
- 【事務局】
- ・豊島区障害者就労支援センター
センター長 畑 奨
地域開拓促進コーディネーター 篠崎 萌
地域開拓促進コーディネーター 正木 陽江
地域開拓促進コーディネーター 田村 陽菜

※所属等は令和6年12月時点のもの

令和6年度 豊島区障害者就労支援センター実証実験
新たな障害者雇用モデルの実証実験報告書
令和7年1月22日 発行
編集 豊島区障害者就労支援センター

